



令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道白老町

自治体名：北海道白老町

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：0144-85-2020

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	425.64 km ²
人口	15,048人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	247人
部活動数	文化部：3部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

中学校は2校あるが、近年は両校とも部員数は減少しており、今後、単一校では部活動を維持することが厳しくなると見込まれている。

文化芸術活動においても、吹奏楽は単一校での編成が困難となってきている状況にある。

また、教職員の働き方改革に係る「時間外在校等時間」の集計において、それぞれの中学校で部活動の顧問をしている教職員の在校時間が長くなっている傾向が見られる。

【課題】

本町では少子化が進み、平成28年度と令和5年度の生徒数を比較すると約30%の減少となっており、現時点での出生数から推計される令和12年度の生徒数は、さらに25%程度減少するものと想定される。

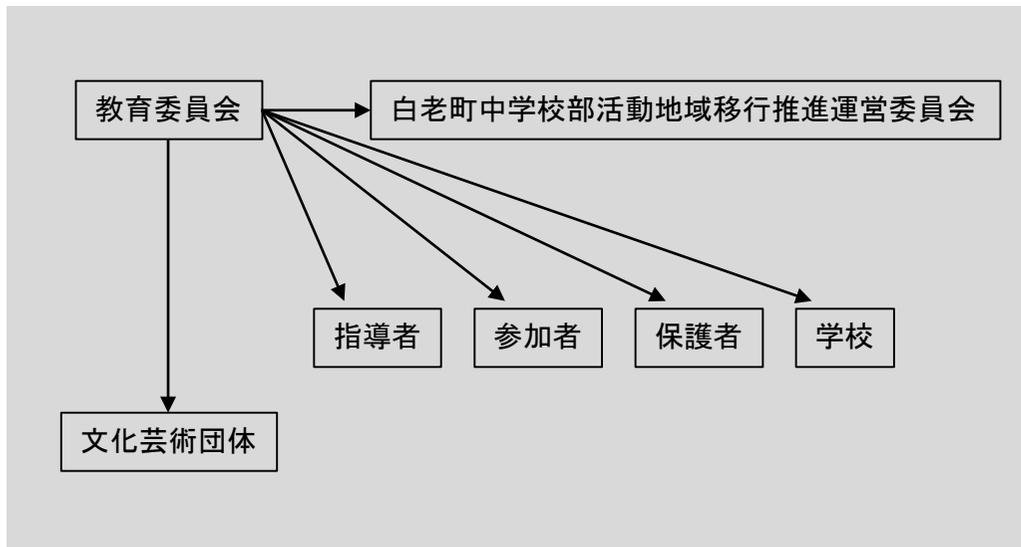
	白老中	白翔中	合計
H28年	222	151	373
H29年	201	154	355
H30年	183	136	319
R 1年	179	126	305
R 2年	162	109	271
R 3年	151	101	252
R 4年	143	106	249
R 5年	146	113	259
R 6年(推計)	147	102	249
R 7年(推計)	141	91	232

出店：白老町中学校部活動地域移行推進計画（R6.2策定）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課・・・スクールバスのオペレーション
- ・生涯学習課・・・地域指導者との連絡調整、環境整備、学校との連絡調整

◎首長部局

- ・企画財政課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月 実証事業計画作成
各学校との調整
- 令和6年5月 実証事業委託契約締結
各クラブとの連絡調整
- 令和6年6月 保護者との意見交換
- 令和6年8月 活動開始
- 令和6年10月 演奏会開催
- 令和6年11月 演奏会開催
- 令和6年12月 演奏会開催
- 令和7年3月 演奏会開催（予定）
町地域移行推進運営
委員会開催（予定）

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは未 尾に（新）を付け る	実施回数	実施時 間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加 方法
吹奏楽クラブ	地域クラブ	吹奏楽	週3回	17:00 ～ 19:00	1年2人 2年1人 3年1人	通年	白老町コ ミュニティ センター	1人	1人 (内、兼務0人)	年会費 2,000円	その他：地 域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- R06.10.06(日) ポロトミタラコンサート
- R06.11.17(日) 苫小牧市高齢者施設ウエストビレッジ演奏会
- R06.12.22(日) 北吉原ふれあいプラザクリスマスコンサート
- R07.03.02(日) サンクスコンサート（予定）

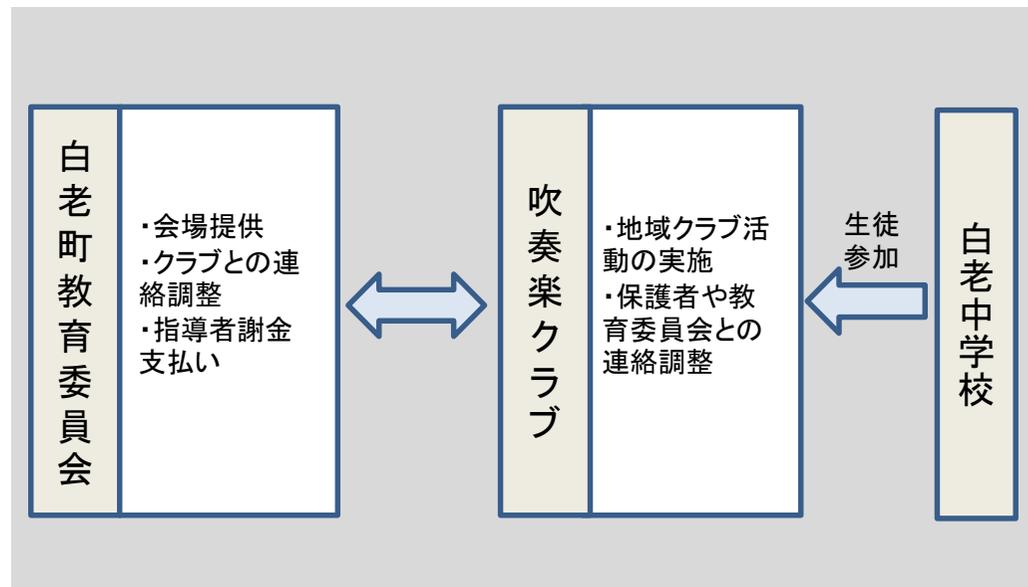
2.実証内容と成果

主な取組例

●吹奏楽クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	吹奏楽クラブ (仮称) 白老ウインズブラスクラブ
期間と日数	吹奏楽：8月6日～ 週3回程度
指導者の主な属性	地域の吹奏楽団代表
活動場所	白老町コミュニティセンター
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	吹奏楽：2,000円
1人あたりの保険料	未加入

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者兼指導者

役割：活動における管理者として、学校・保護者との連携を行うとともに、指導者として生徒に指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

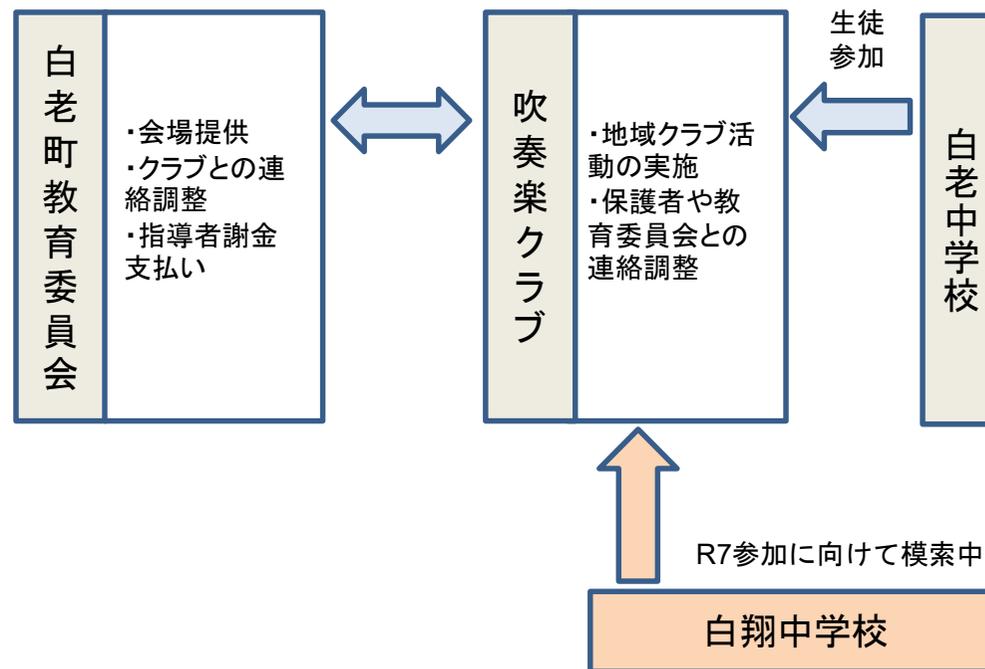
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・R6は教育委員会生涯学習課が主体となり、指導者や学校との連絡調整を行い、運営主体の移行を前提に準備を進める。
 ・R7から参加者・保護者・指導者・学校・関係団体・担当課（教育委員会生涯学習課）を結ぶ、コーディネーターの役割が重要となることから、人選を行っていく。

取組の成果

教育委員会生涯学習課がコーディネーターとなり、指導者や学校との連絡調整を行ったことで、町内2中学校（白老中・白翔中）にそれぞれ存在する吹奏楽部のうち、1校（白老中）において地域クラブ化を進めることができた。
 今後においてはもう1校（白翔中）が地域クラブに合流できるよう体制を整備する必要がある。



コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターの配置実績なし

今後の課題と対応方針

現在運営に関わる地域人材は1名しかおらず、統括責任者と指導者を兼務しており、負担が大きい状況であることから、スタッフの確保が急務である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・地域人材の協力体制の確保を目指すとともに、教職員等の兼業・兼職運用の整備を行うことで量を確保していく。
- ・地域クラブの持続的な活動が保証できるよう、R7移行時に指導者の公認制度の研修や講習が取扱えるよう準備を進める。

取組の成果

- ・町内文化団体連絡協議会と調整を図り、音楽連盟に加盟する白老吹奏楽団から指導者を1名確保することができた。
- ・上記指導者が所属する吹奏楽団内で地域クラブの活動状況等の説明を行い、新たな指導者の確保に努めたところ、新たに3名の大人がR7年度以降の指導に意欲を示している。
- ・平日の活動時間帯に関して、生徒・保護者の理想としてはこれまでの部活動と同様15：30～17：30であったが、指導者確保を最優先に考える必要があったため、生徒・保護者と協議を重ねて17：00～19：00とし、地域の指導者が活動に加わりやすい時間帯設定に努めた。

今後の課題と対応方針

生徒や保護者に対して安心安全な運営体制を保障するため、指導者研修等の実施を検討する必要がある。

また、当初は教職員等の兼業・兼職運用の整備を行うことで指導者の量を確保していく計画もあったが、未着手となっていることから、再度運用に向けた検討を進める必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

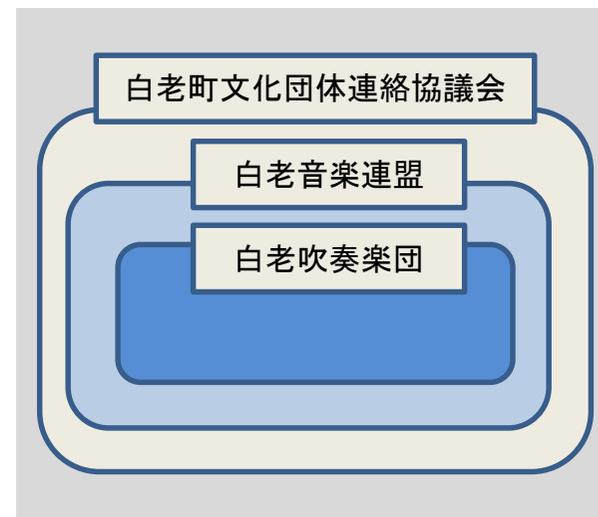
・文化団体連絡協議会との連携により、指導者の掘り起こしや発表の場の提供など地域と関わりを持ち、クラブ移行を進めていく。

取組の成果

指導者が白老町文化団体連絡協議会の会長でもあり、地域の社会人で構成される「白老吹奏楽団」の団長でもあることから、同団体との連携による合同演奏会を開催する計画が進んでいる。

今後の課題と対応方針

吹奏楽は本来大勢での合奏が醍醐味の一つであるが、同クラブの生徒数が少ない現状から演奏できる楽曲に制約がある。これらを解決するため、もう1校の吹奏楽部の地域クラブ合流を進める必要がある。



●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・地域クラブ参加者確保のため、小学生が演奏を聴く機会を設けることで、演奏することへの憧れや意欲を高める関わりをしていく。
- ・高校吹奏楽部や社会人の吹奏楽団との関わりを持てるよう、環境整備を進める。

取組の成果

社会人団体「白老吹奏楽団」との関わりにより、高いレベルでの演奏を間近で聞くことができ、生徒への刺激につながった。

今後の課題と対応方針

クラブ員の人数が少なく演奏できる楽曲に制限があることから、加入者を増やすための取組として地域の小学生向け演奏会や体験会等の実施を検討したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

・複数のクラブ活動に参加できる
 仕組みを構築していく。

→未実施

・生徒のモチベーションを高めるため、
 地域住民向けの演奏会を実施した。

活動の詳細			
参加人数	4人	指導者数	1人
属性			
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・観光商業施設での屋外演奏会実施 ・高齢者福祉施設での演奏会実施 ・地域の会館等での演奏会実施 		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの演奏を聴いてもらえると思うと、練習に力が入る。 ● 地域の方々の笑顔を見ることができて嬉しい。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 若いエネルギーを感じることができて元気をもらえた。 ● また演奏しに来てほしい。 		
運営経費	なし		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

観光商業施設や高齢者福祉施設、町内会館等での演奏会を実施し、合計で延べ60人の一般町民や観光客の方々に日頃の練習の成果を聞いてもらうことができた。

このことから、地域において複数回の演奏会を開催したことは、生徒にとってモチベーションにつながるとともに、活動と存在をPRしたことで地域住民からの応援を得ることができた。



11/17(日) 高齢者福祉施設での演奏会のようす

今後の課題と対応方針

○地域での活動展開は生徒のモチベーションにつながった一方で、活動の人数が少なく、演奏できる楽曲に限界があることから、活動人数の更なる充実を求める声が聞かれるようになった。

○今後においては社会人や高校生との合奏を視野に活動を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

・白老町コミュニティセンター（白老町中央公民館）を活動拠点とするにあたって、施設使用料が免除となるよう条例・規則に基づき整理をした。

取組の成果

白老町コミュニティセンター（白老町中央公民館）館長との調整を図り、施設管理者の理解を得たことで、通常の貸館利用に影響のない範囲で活用することができた。

全65回の活動のうち、61回は白老町コミュニティセンターのいずれかの部屋を活用している。

吹奏楽クラブ活動場所・回数

全65回の活動のうち、61回が白老町コミュニティセンターで行われている。

〔 ・1回（町内会館）
・3回（地域での演奏会等） 〕

61回（白老町コミュニティセンター）

4回

今後の課題と対応方針

現状、白老町コミュニティセンターで支障なく活動できているが、今後クラブ員の増加を見据えると楽器の保管場所が課題となってくる。特に、打楽器の保管にはスペースを要する。

今後は学校施設（音楽室）を活動場所として使用できるよう、学校との調整を進めるとともに、足の確保についても検討する必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・地域の社会人で構成される「**白老吹奏楽団**」との**連携**の下、吹奏楽部の地域移行を進める運びとなった。
- ・2校のうち1校において吹奏楽部の地域移行が進んでおり、クラブには4名の生徒が在籍。
- ・**指導者としては同団体の団長へ委任し、8月以降週3回のペース**で白老町コミュニティセンターを拠点に活動を実施。
- ・人数が少なく、演奏できる楽曲に制限があるが、定期的に**同楽団から支援者を募ることで演奏の幅を広げている**。
- ・これまで地域に出向いた**演奏会を3回開催**し、住民に活動成果のお披露目をするとともに、**生徒のやる気を引き出している**。

●成果の評価

- 令和7年3月をもって廃部となる白老中学校の吹奏楽部において、吹奏楽継続したい生徒の受け皿を早急に確保できたことはよかった。
- クラブ員が4名という極めて人数が少ない中での活動であるが、地元の吹奏楽団との連携により同楽団から演奏支援者を募ることで、より幅広い楽曲の演奏を可能とするとともに、より高いレベルでの練習を行うことでスキルアップにつなげることができた。
- 一方で、各楽器の細かいパートについては少人数の強みを生かして手厚く指導を行うとともに、生徒の自主性を尊重することができた。

●今後に向けて

- 今後は、吹奏楽部が存続している白翔中学校の合流を進め、町全体として吹奏楽部の地域移行を進めることができるよう、足の確保や活動拠点の整備、さらには楽器の修繕にかかる資金調達など、環境整備を進める必要がある。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【10/6(日) ポロミントラコンサート】



【11/17(日) 苫小牧高齢者施設ウエストビレッジ演奏会】



【12/22(日) 北吉原ふれあいプラザクリスマスコンサート①】



【12/22(日) 北吉原ふれあいプラザクリスマスコンサート②】

2.実証内容と成果



地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

白老町教育委員会、白老中学校、白老吹奏楽団

●経過

令和7年3月末をもって白老中学校吹奏楽部の廃部が決まり、町教育委員会と地元の白老吹奏楽団関係者が協議を重ね、中学生向けのクラブを立ち上げた。

●実施にあたって生じた課題

練習時間帯はこれまでの部活動の時間帯が望ましかったが、指導者の確保等の課題があったため、保護者の理解を得た上で17～19時に設定した。

また、活動拠点としては中学校の音楽室が望ましかったが、セキュリティ（機械警備）のため教職員以外の音楽室の立ち入りが不可能な時間帯であったことから、白老町コミュニティセンターを拠点とするため管理者と協議し、施設使用料は全額免除とした。

しかし、白老町コミュニティセンターは楽器の保管場所が少ないため、今後は学校施設（音楽室）を活動場所として使用できるよう、学校との調整を進めるとともに、足の確保についても検討する必要がある。

なお、地域クラブとしてコンクールに出場する際は、地区吹奏楽連盟（苫小牧）に加盟する必要があるが、会費徴収を含めて加盟料にかかる資金調達の見通しが立てられなかったことから、生徒や保護者と協議の結果、本年度は加盟しないこととした。

●実施内容、工夫した点等

コンクールには参加できなかったものの、生徒のモチベーションを高めるため、定期的に地域に出向いた演奏会を企画・開催した。

●今後の展開

今後も定期的に演奏会を開催し、地域とのつながりをさらに広げるとともに、コンクールにも出場できるよう連盟加盟を見据えた会費負担の必要性も説明していきたい。

3. 今後の方向性

